

2007年度 代表事業①

事業名

6月度第二例会 記念例会（納涼例会）

委員会

例会管理委員会

委員長：杉山 喜志雄

副委員長：日野口 智彦

副委員長：芦沢 玲欧奈

幹事：興津 伸一郎



事業趣旨要約

創立2年目である本年度は、LOMの更なる発展を目指すうえで、より一層メンバー同士の「友情」と「絆」を構築する大切な年です。毎月行われる例会や総会などの出席状況を鑑み、今一度、メンバー全員が集まり、いろいろな人と交流する場である例会の原点に立ち戻り、例会に集う意義を見直す必要があります。そこで創立記念を祝う本例会において、出席率100%に挑戦、努力、実現して、メンバーの「ところ」をつにつにすることが必要だと考えます。そして創立2周年を全員で盛大に祝うという目標をメンバー丸となって達成できた時、本当の意味でメンバー同志の「友情」と「絆」が構築できるものと思います。また、LOMをあげて取り組んだ第34回JC青年の船「とうかい号」をはじめとする前半戦の慰労と、後半戦のスムーズなスタートが切れることを目指し、メンバー全員が楽しめる例会を企画・運営します。

背景

あらゆることが効率化され便利になったこの現代、我々青年会議所メンバー同志のコミュニケーションの手段も大きく変化を遂げてきました。簡単・便利なツールを駆使して活動が行われる一方で、顔と顔を合わせた直接のコミュニケーションが薄れつつあるように思われます。

（社）静岡青年会議所メンバーが大きな変化と新たな出会いを経験し一年余り経ったが、まだまだメンバーの顔は知っているが会話をしたことがない、顔はみたことがあるが名前も知らないということもあるのが現状です。

効果

・例会の出席が悪い中、今一度いろいろな角度からメンバーを呼びかけることにより、メンバー同志の絆を深め、LOMの活性化につなげることができる。

・委員会ではないメンバー同志の繋がりが構築することにより、LOMの一体感を深める。

目的

・創立2周年をメンバー全員で祝う。

・メンバー同志の「友情」を深め「絆」を構築する。

事業概要

日時場所：2007年6月19日（火）19時から21時 グランシップ 交流ホール

参加人数：結果、255人） 99.2%出席

事業総額：1,230,726円

例会の流れ・目的

【記念例会 納涼例会】

1登録開始

※出席率100%を達成するため、下記企画を行った。

～写真パネルの活用～ 事前に杉山理事長の顔を印刷して分割した出席要請のハガキをメンバーへ送り、持参したハガキを1人1人が貼付理事長の巨大パネルを完成させる。「若いわれら斉唱前に写真パネルを使用し盛り上げるという企画。

2開会宣言 静岡青年会議所 副理事長 福泉衛君

3国家斉唱 「JC ソング」斉唱 「JCI クリート」唱和 「JC 宣言」朗読並びに「綱領・スローガン」唱和

4理事長挨拶 静岡青年会議所 理事長 杉山茂之君

5新入会員認証式

6第34回JC青年の船「とうかい号」報告

7創立2周年記念セレモニー ・オープニングビデオ(2006年、3LOMが合併し新しいJCIがスタート⇒2006年活動映像⇒2007年活動映像)

・活動を振り返った後、静岡市長の小嶋善吉様から頂いた祝辞ビデオを放映した。

8乾杯 静岡青年会議所 初代理事長 鈴木秀幸君

・乾杯後、OB会長による祝辞ビデオを放映し、未来の静岡青年会議所に求められることを先輩方に述べて頂き、メンバーが「まち」、未来に対する意識の高揚を図った。

9納涼会(交流)

・名刺交換ゲーム 会話をしたことが無いメンバーと積極的に名刺交換をすることにより、新たなメンバーの友情が生まれ、LOMの活性化に繋がる設営をした。

・加藤清正ジャンケン 創立1年目のメンバーと創立2年目の新入会員と対決し、チームワークを構築するゲームを設営した。同期の結束力が強く結ばれる効果があり、またメンバーの意外な一面が見えるゲームとなった。

・JC大吉利大会 「例会を集う意義」をテーマにステージとテーブル対抗で、お題に応じた面白い回答を披露し競い合うという大会を行った。例会・総会の出席率が悪い中、参加するという意義を見直す上で例会は楽しく・おもしろいものであることをメンバーに伝え出席率の向上を図った。

10出席率報告・委員長挨拶 静岡青年会議所 理事委員長 杉山喜志雄君

11「若いわれら」斉唱

・全員で「若いわれら」を熱唱し、後半戦の事業をスタートさせる。

12記念写真撮影

13閉会宣言 静岡青年会議所 常任理事室長 廣瀬康人君

達成検証

<目的を達成した点>

・創立2周年をメンバーほぼ全員で祝えた。

・メンバー同志の「友情」を深め「絆」を構築することができた。

<目的を達成できなかった点>

・100%例会を遂行できなかった。

所見

今回の記念例会（納涼例会）では、創立2年目をメンバー全員で祝うことを目的にがんばってきましたが、結果2名の欠席者になりました。欠席者が2名出ましたが、本当にメンバーの皆様のところが一になり、メンバー同志の「友情」を深め「絆」を構築することができた例会だと思います。

また、この情報社会においてコミュニケーションの手段も大きく変化をしていますが、便利になっているものばかりに頼らず、電話や会って熱意を伝えることも必要だと思います。

それが、本当のこのコミュニケーションに繋がれ、更にLOM発展になると思います。



担当委員長Q&A

- 01** 事前に理事長の顔を印刷して分割をしたハガキをメンバーに送りパネルを完成させるという素晴らしい企画はどのように決まったのですか？

メンバー全員の「絆」を作るという気概を持って企画しました。

- 02** 合併2年目ということで、まだまだ旧LOMの考え方や文化の違いから衝突もあったと思いますが、苦労された点をお教え下さい。また、どのようにして委員会をまとめたのでしょうか？

「想い」重視の清水「C」、「理論」重視の静岡「C」の狭間で悩みましたが、委員会開催時にはスタッフと一緒に念入りに下準備を行い、メンバーの貴重な時間を有効に使うよう心掛けました。

- 03** 具体的にどのような方法で出席率向上（100%例会）に努められましたか？

上程中から、自分の委員会は100%出席を達成し、他委員会の手本となるよう努めました。また100%例会達成の為に、スリープメンバーの掘り起しを行いました。メールではなく直接メンバーに連絡し、出席見込みが薄いメンバーに関しては1人1人面談し出席をお願いをしました。

- 04** 事前に十分な準備、想定をして設営されたと思いますが、当日になって困ったことや、想定外で面白かったことはありましたか？

当日は全てにおいて、目が回るほどの忙しさでした。約束していた1人が欠席となりショックでした。また、参加したメンバーが貼る「杉山理事長顔パネル」が完成出来ず本当に残念でした。

- 05** 納涼例会を経験した事がないメンバーからすれば、イメージ的にクリスマス例会を思い浮かべますが、この納涼会の一番の特徴は？

1年の折り返し地点、事業もよりたくさんになる夏に向けて、さらなる結束力を生む例会となりました。

- 06** 例会前と比較し、メンバーの結束力はどのように変化したと思われますか？

「あの例会をやってよかった」と他の委員長から言われました。例会後、ほとんどの委員会の出席率が上がったことに関しては、例会を実施した意義がメンバーに伝わり本当に嬉しかったです。幹事の努力だけでは出席率は上がらない事を再認識し、委員長はもちろん、スタッフ、予定者、メンバー全員で出席への意識を高め、協力することが必要だと改めて感じました。

- 07** 例会前と例会後での杉山委員長の気持ちはどのような変化がありましたか？

大変だったからこそ、やれてよかったと思います。低い出席率だと理事長に迷惑がかかると思い、100%例会にするかどうかで採めた議案でしたが、結果、ほぼ100%を達成できて良かったです。チャレンジする機会を与えてくれた正副理事長に感謝しています。



取材全体としてのまとめ・感想

取材中、杉山喜志雄委員長の人を惹きつける暖かい人柄を強く感じました。メンバー全員の「絆」を深め、結束力を強めていくためには理論も大切だが、「想い」が重要であると改めて感じました。常に前向きで一生懸命な杉山委員長に委員会メンバーが感化され、委員会メンバーの成功させたい気持ちが一丸となった結果、素晴らしい例会につながったのだと思いました。

取材前と後での特に気付いた点

本例会での100%例会実施が、今の質詞交歓会の100%例会の礎になった事を知り、静岡JCのルーツを感じました。